

2014.06.23号

・鹿児島砕石各社m³100～300円値上げ

鹿児島県全域で砕石の値上げが進んでいる。砕石各社は今年4月または昨年10月から輸送費込みの着値m³辺り(以下同)で100～300円を値上げした。ユーザーの生コン業界が協組共販体制を強化して生コンの値上げを図っていることもあり生コン用製品を中心に砕石値上げは浸透する。「建設物価」4月上旬調べで鹿児島の砕石はコンクリート用で前月比200円、道路用で100～200円上がっている。砕石各社は低迷する価格を底上げし、電気代・燃料代の上昇やダンプ不足に伴う運賃高騰など、生産・輸送にかかわるコストアップ分の価格転嫁を目指す。並行して鹿児島地区を中心に建設資材の現金取引化が進んでおり、各社は砕石製品の手形取引から現金取引への移行を要請している。

・値上げ交渉まとまるも需要化との綱引き続く

首都圏の骨材各社と需要家の値上げ交渉がまとまり値上げの理解は得られたものの、生コンなどユーザー業界は材料コストがかさむことを回避し、生コンの値上げの浸透をみながら実際に骨材の値上げを受け入れていく姿勢が鮮明だ。骨材各社にとっては輸送手段の安定確保には早急な運賃への転嫁が不可欠であり、需要化との綱引きが新年度に入っても続く。首都圏の骨材需給と値上げの進ちよくについて取材した。

2014.06.09号

・東中濃砕石販売協組各社、ト^ン200円値上げへ

東中濃砕石販売協同組合(小西輝幸理事長、11社)の組合員各社は10月出荷分から生コン用、合材用の単粒度砕石について砕石工場渡しでト^ン200円、輸送費込みの持ち込みでト^ン400円値上げする方針を固めた。生産では軽油代や電気代、消費税引き上げ等による資・機材費の上昇などコストアップ要因は多く、輸送では備車台数の絶対数の不足で備車運賃は繁閑にかかわらず右肩上がり。コストアップ分を価格転嫁するとともに砂利・砂の不足で引き合いが増える生コン用湿式砕砂の増産など、骨材の安定供給に向けた原資を確保する考えだ。

・鶴田欣也愛知県砕石工業組合理事長に聞く

愛知県では名古屋の都市再開発工事や新東名高速道路工事など大型物件が出てきており、コンクリート用骨材を中心に需要が回復傾向にある。経済産業省の調べによると13暦年の県内の砕石出荷量は前年比5.0%増の487万ト^ンでこのうちコンクリート用250万ト^ン(15.6%増)、道路用204万ト^ン(2.9%減)。一方、安定供給を継続するうえで資源(原石)確保の困難さやダンプ不足に直面する。愛知県砕石工業組合(13社)の鶴田欣也理事長(日本砕石協会元会長)に砕石業界の現況や課題を聞いた。